

どんな施設に入っても一人暮らしをするのは覚悟が要ります。
だから自ら生きがいをつくって行くこうと思いました

佐倉(ゆうゆうの里) 北野 博様(80歳)

令和2年10月 一人入居

転職してから小学校の教員を
40年間勤めました

山梨県の甲府盆地西側の景色の
いいところ、今で言う南アルプス
市に生まれました。戦争の記憶は
ありませんが、甲府市が爆撃され
たときには姉に背負われて避難し
たそうです。5人きょうだいの
末っ子で可愛がられて大きくなり
ました。都内の大学を卒業して公
務員となりました。仕事で学校と
付き合いを持つようになり、教員
という仕事は面白いなあと惹かれ
るものを感じました。それから試
験を受けて27歳で教員に。以来、
小学校の教員を40年間勤めました。



愛用のカメラを構える北野様

教員は私の職業観と合っていて、
一度もイヤだとか失敗したと思う
ことはありませんでした。幸せな
職業に就くことができたと思っ
ています。

家内の思い出の詰まった家計
簿を引き継ぎました

家内とは職場で出会い、30歳位
の時に結婚しました。二人とも教
員をしていましたが、年子で子供
が産まれたため、家内にはやめて
育児に専念して欲しいと頼みまし
た。体を壊してしまわないか心配
したからです。当時、子育てをし
ながら働き続ける環境は整ってい
ませんでした。家内は続けたかつ
たようですが、専業主婦になり二
人の息子を育ててくれました。家
内は中学の頃に父を亡くし母が
苦勞して、3人の子供を育てたと
聞いています。そんなですから
贅沢できない育ちで、私の安月給
の中から本当に上手にやりくりし
てくれました。家内は家計簿を直
けていました。病気で亡くなる直
前まで続けていて、日記のように
記されています。最後は力が入ら
ず書くことができなくなりました。

その大学ノートの
家計簿を今では私
が引き継いでつけ
ています。あの時
あそこに出かけたとか、あの時は
病気をしたとか見ながらいろいろ
と思ひ出します。本当に苦勞をか
けたなと思うことがかりです。

佐倉は私が育った環境に似て
いて、豊かな自然が気に入りに
ました

子供を育てるときに都内から佐
倉市に引越しました。子供たち
は皆、佐倉で育ち、退職する少し
前に独立して行きました。家内と
二人での生活が始まり、子供たち
には老後の負担をかけたくない、
時期が来たら(ゆうゆうの里)の
ようなところに入居しようと話す
ようになりました。しかし、4
年前に家内ががんを発症し、発病
から9ヶ月で亡くなつてしま
いました。闘病の間は夢中でしたが
家内を見送った後、しばらく茫然
としていました。一人になって一
年が経ち、将来のことを具体的に
考えるようになりました。入居費
用も家内がやりくりして貯蓄して
くれていました。感謝の気持ち
は尽きません。佐倉は、私が育った
環境に似ていて自然豊かで、老後



北野様撮影の作品「はち」

を過ごすのには最適だと思いま
した。また、(ゆうゆうの里)は施
設運営にも歴史があり、職員はと
ても親切でサポートする姿勢が確
立されていると感じました。

好きなことをやるのがいいと
思うんです。嫌いなことはやっ
ちやあいけないですね

私は一人暮らしをするのは覚悟
がいてると思っています。どんな施
設に入っても孤独や寂しさはあり
ます。だから、生きがいを自ら
作っていく・・・、人との付き合
いを大切に、お互いに助け合っ
て行く必要があると思います。そ
れができそうな雰囲気があること
はあります。私は若い時から写真が
好きで草木や自然を撮ってきました
。野鳥の会に入っていたことも
あり、小鳥を観察し写真も撮りま
した。入居してからは、近くの堀
田邸で小鳥を眺めたり、草花を撮
影したりしています。この時代は
インターネットで繋がりが持た
ますし、私自身もブログで撮り溜め
た写真を発信しています。それに
今一番の楽しみは晩酌ですね。一、
二合飲みますが至福の時間です。

